

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東邦大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウホウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310103359
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	キャリアデザインⅢ・企業研修
	学部・研究科等名	理学部・理学研究科
	担当教職員名・役職	川田健文：教授・就職委員長、鈴木貴宇：准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	55
	受入企業等数	27
	受入企業等名	(株)SCC、(株)エスワイシステム、エヌエス環境(株)、(株)NJS、キャロットソフトウェア(株)、ケーイーエフ(株)、広栄化学工業(株)、ジェネシスヘルスケア(株)、(株)自然教育研究センター、(株)新栄、(株)生態計画研究所、中外テクノス(株)、TDCソフト(株)、東邦ホールディングス(株)、トーテックアメニティ(株)、(株)東和コンピュータマネジメント、ニッタン(株)、(株)日本テクノ開発、(株)ファンテック、谷津干潟ワイズユース・パートナーズ、島崎熱処理(株)、ダイダン(株)、ダイヤ(株)、(株)TSOne、東京冷機工業(株)、三谷産業(株)、(株)トータルオーエーシステムズ
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	企業と大学が連携し、大学で学んでいる分野（自然科学、生命科学等）と社会での実務の繋がりを意識した実習プログラムを作成している。具体的には動植物の自然調査、水質・大気などの環境調査、ビクターセンターでの展示解説、ソフトウェア開発など現場での職務を経験し、業務内容の理解を深めている。また企業から与えられた課題やテーマに沿って、学生自ら取組み課題解決を行っている。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	

要素②	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年
		大学 学部3年
		大学院 修士1年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位
		大学院 1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	学部2・3年は「キャリアデザインⅢ（選択科目）」、大学院1年は「企業研修（選択科目）」として休業期間中に実施し、いずれも1単位を付与する。専門教育とのつながりを明確にするため学科の専門分野を意識した受入企業開拓・プログラム企画を行っている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している	
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全5回の事前講義を実施①自己分析②適性診断 MATCHPlus③履歴書・エントリーシートの書き方④インターンシップに必要なマナー⑤面接対策。参加直前に参加決定者ガイダンスを実施（参加前・実習期間中・参加後の流れ・気を付ける点をレクチャー、参加目的・目標設定に関するプレゼンテーションを行う）。事前学習を学内のキャリアカウンセラー（3名）が担当することで、個々に合わせた継続的な支援を行っている。	

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	参加者全員が対象となり「インターンシップ成果報告会」を実施。グループワークを通してインターンシップ参加前・後の変化を知る。グループで「インターンシップを通して学んだことを今後どのように活かすのか」をディスカッションし発表を行う。各学科の就職主任（6人）、インターンシップ受入企業担当者もオブザーバーとして参加。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	例年は学内のキャリアカウンセラー（3名）がインターンシップ期間中に企業訪問を行い、企業担当者や学生との面談を行っている。面談では参加学生の様子、今の大学生に求めることなどヒアリングを行う。今年はコロナ禍のため訪問は中止したが、状況に応じて学生・受入企業と連絡を取り合っている。また希望者にはキャリアカウンセラーによるキャリア相談を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	<ol style="list-style-type: none"> <li>参加目的、目標設定を参加前（事前講義）・参加後（インターンシップ成果報告会）にワークシートを活用して自己理解、学びの定着を図る。</li> <li>適性診断MATCHPlusを導入、参加前（事前講義）と参加後（インターンシップ成果報告会終了後）に行う。客観的に自分の「変化」を知ることができる。</li> <li>社会人基礎力をベースに本学の学生に伸ばして欲しい要素を組み込み「評価シート」を作成。受入企業全社に依頼しインターンシップ終了後、学生にフィードバックを行う。</li> </ol>	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間 5日～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	1日6時間以上、実質5日以上参加が条件
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している

要素⑥		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細		受入企業に事前に設計シートを提出してもらい、プログラム内容、学生に期待する成果レベル等大学と企業で共有している。また、インターンシップ成果報告会に企業担当者も参加。企業側から学生に求めること等フィードバックを行う。さらに、社会人基礎力をベースに本学の学生に伸ばして欲しい要素を組み込み「評価シート」を作成。受入企業全社に依頼しインターンシップ終了後、学生にフィードバックを行う。インターンシップ専門人材（学内キャリアカウンセラー）が企業との調整に加わっている。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL		<a href="https://activeacademy.nc.toho-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&amp;opi=mt0010">https://activeacademy.nc.toho-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&amp;opi=mt0010</a>
問い合わせ先	大学等名	東邦大学
	担当部署名	習志野学事部キャリアセンター
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	勝見知恵子
	電話番号	047-472-7229
	メールアドレス	<a href="mailto:shoku@toho-u.ac.jp">shoku@toho-u.ac.jp</a>